

No. 119

甲虫ニュース

September 1997

COLEOPTERISTS' NEWS

日本産エンマムシ上科概説 VI^{註1}

—アリヅカエンマムシ亜科, オオマメエンマムシ亜科 (オオマメエンマムシ族,
ツブエンマムシ族, チビヒラタエンマムシ族: クロチビエンマムシ属,
マルチビヒラタエンマムシ属)—

大原 昌宏

1-3-6. アリヅカエンマムシ亜科 Hetaeriinae

本亜科は従来, Hetaerimorphini と Hetaeriini の 2 族 に分類され, それぞれ 82 属 256 種, 11 属 102 種が記録されていた (MAZUR, 1984). HELAVA, HOWDEN & RITCHIE (1985) は新大陸の本亜科を整理し, 99 属を確認し (15 属が新属, 3 亜属が属に昇格, 4 属がシノニムで無効, 3 属が本亜科以外に所属移動; さらに旧大陸に分布を限る 3 属がある), そのうちの 77 属について属レベルの詳細な再検討を行った. さらに彼らは, 従来の 2 族に分ける形質「触角が楕円形」または「筒状」の実用は難しく, かつその族は系統的なグループでもないとし, 新たに 5 つのグループへの分類を提示した.

本亜科の正確な属数, 種数は数えていないが, 約 100 属 350 種ほどと認識しておけばよいのではないだろうか. 1 属 1 種のもものが 2/3 ほどを占め形態分化の進んだ亜科といえる. ちなみに HELAVA et al. (1985) には 77 属の電子顕微鏡 SEM 写真による全体図がついており, コインのような扁平なものから瓢箪のように体のくびれたものまでアリヅカエンマムシ類の形態の多様さを実感させてくれる. すべての種がアリカシロア

リと関係があり, いくつかの行動, 生態の報告がある (HÖLLDOBLER & WILSON, 1990: 487 にアリと関係するエンマムシ類のまとめ有). 日本には 1 属 2 種が分布する. 日本の種について詳しい生態の報告はない.

アリヅカエンマムシ属

Hetaerius ERICHSON, 1834

世界に 30 種, 日本からは 2 種が知られる.

1(2) 体は赤または赤褐色. 前胸背側方に皺はない. ……………

……………アカアリヅカエンマムシ

2(1) 体は黒色. 前胸背側方に皺を密にもつ. ……………

……………クロアリヅカエンマムシ
アカアリヅカエンマムシ (図 2A)**Hetaerius gratus** LEWIS, 1884

図説 N: 70, f. 35-23. 図説 H: 230, f. 41-35; ÔHARA, 1994: 144 [再記載].

体長 (前胸背前縁から尾節末端まで) 1.69-2.08 ミリ, 幅 1.41-1.53 ミリ. ツノアカヤマアリ・クロヤマアリ・エゾアカ

ヤマアリ・アカヤマアリの巣から採集されている. 春先のアリがまだ巣を地中深く掘る前には採集が容易らしい (黒沢, 1976). アリの巣内の一箇所で行転するように素早く走り回り, 擬死をする他のエンマムシ類とはかなり行動が違う印象を受ける. 通常背面に長い毛をもつが, 欠くものもいる. 分布: 北



Mari

図 1. オオマメエンマムシ *Dendrophilus xavieri*
MARSEUL

^{註1} M. ÔHARA, Taxonomic note on the superfamily Histeroidea of Japan, VI.

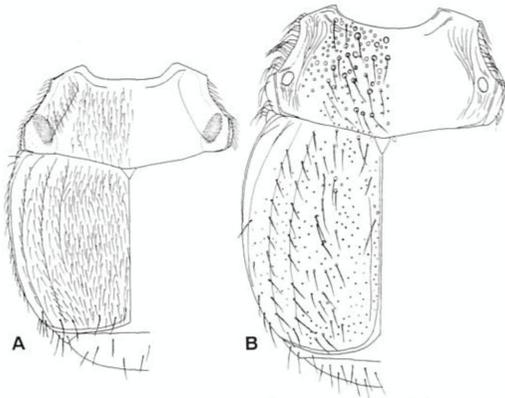


図2. アリツカエンマムシ属. A: アカアリツカエンマムシ, B: クロアリツカエンマムシ. 前胸背と左鞘翅 (OHARA, 1994より).

海道, 本州, 九州.

クロアリツカエンマムシ (図2B)

Hetaerius optatus LEWIS, 1884

図説 H: 230, f. 41-36; OHARA, 1994: 146 [再記載].

体長 2.18-2.27 ミリ, 幅 1.57-1.64 ミリ. クロクサアリの巣から得られている. 背面に長い毛をもつが, それに短い毛に置き換えられるものがある. 珍しい種で標本も少なく, 生態, 地理変異など詳しいことはわかっていない. 分布: 北海道, 本州, 四国.

1-3-7. オオマメエンマムシ亜科

Dendrophilinae

4族に分類される. 世界に約370種. 日本からは4族21種が知られる. 本亜科のものはドウガネエンマムシ亜科・クロツブエンマムシ亜科・ツツエンマムシ亜科・ニセツツエンマムシ亜科と同様に, 「前胸腹面にある触角をしまう溝は, 前胸腹板突起と平行に縦に位置する (図3E, F)」。これらの亜科のなかで本亜科のみが「のど板」をもつ. 樹皮下に生息する種が多く, 一部腐敗物に集まるものや土壌性のものがある.

族までの検索

1(2) 前脛節の外縁は厚みがあり, 短い刺毛を具えた2つの縁をもつ; 外歯や刺はない; 跗節を受ける溝は2つの外縁の間に位置する (図4A). ……………ツブエンマムシ族

2(1) 前脛節の外縁は薄く, 一つの縁からなる; 縁は細かい外歯をもつ; 脛節の末端には多少とも曲がった刺を具える; 跗節は前脛節の背面にしまわれる (図4B, C, D).

3(6) 前頭条は欠く; 前頭は狭く, 側縁は前方へ収斂する. 体は円形か楕円形で, たいていは凸型で厚みがある. 雄交尾器の basal piece は短い (図7A, B).

4(5) 鞘翅は通常の背条を具える; 背条は明瞭ではほぼ平行に走る. 前脛節の刺は大きい (図4C). ……………オオマメエンマムシ族

5(4) 鞘翅は背条を欠く; 背条をもつ場合は曖昧な痕跡が基部か肩部にあらわれるにすぎない. 前脛節の刺は小さい (図4B). ……アカツブエンマムシ族
6(3) 前頭条はよく発達し上唇の後方でもほぼ完全 (*Eulomalus* 属は例外で途切れる); 前頭は広く台形. 体は通常長楕円で偏平, いくつかの属では楕円でいくぶん厚みをもつものがある. 雄交尾器の basal piece と paramera の比は多くの種で約3:1, basal piece の長いものが多い (図7C-F). ……………チビヒラタエンマムシ族

1-3-7-1. オオマメエンマムシ族

Dendrophilini

世界に3属17種, 日本には *Dendrophilus* 属1種が分布する. 他属の *Phoxonotus* MARSEUL (5種) は南米に分布し, *Kissister* MARSEUL (4種) はアフリカ, 南ヨーロッパに分布する.

オオマメエンマムシ属

Dendrophilus LEACH, 1817

2亜属, *Dendrophilus* (6種; 新・旧北区, コスモ

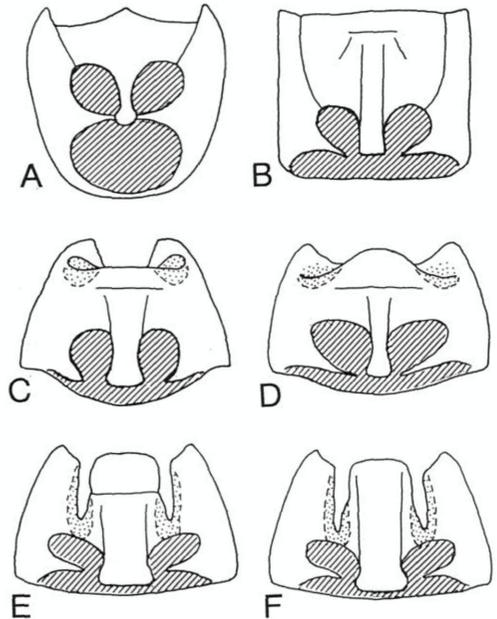


図3. 前胸腹板における触角 (特に球桿) を受け入れる部分の構造の違い (模式図). A: エンマムシモドキ科. B: ホソエンマムシ亜科; 頭部に触角がしまわれるため前胸腹板には構造をもたない. C: セスジエンマムシ亜科・コブエンマムシ亜科, アナアキエンマムシ亜科; 前胸腹板前縁に輪郭を明瞭にした凹陷としてもつ (点描部分). D: エンマムシ亜科・アリツカエンマムシ亜科; 前縁に横長の溝あるいは凹陷としてもつ; 輪郭は不明瞭. E: オオマメエンマムシ亜科; 前胸腹板突起とのど板と平行に縦に溝をもつ. F: ドウガネエンマムシ亜科・クロツブエンマムシ亜科・ツツエンマムシ亜科・ニセツツエンマムシ亜科; 前胸腹板突起と平行に縦に溝をもつ.

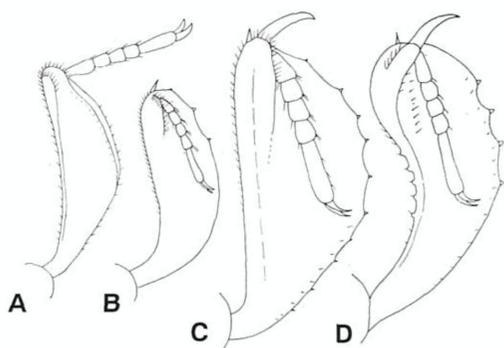


図4. 右前脛節, 背面. A: ツブエンマムシ族 (*Anapleus jelineki*). B: アカツブエンマムシ族 (*Bacanius soliman*). C: オオマメエンマムシ族 (*Dendrophilus punctatus*). D: チビヒラタエンマムシ族 (*Platylomalus complanatus*) (OLEXA, 1982より).

ポリタン)と *Dendrophilopsis* SCHMIDT (2種: シベリア, コーカサス)に分けられる. 後者は「中・後脛節が前脛節のように広がらず」「跗節を受ける溝が明瞭なこと」で前者から区別される.

オオマメエンマムシ (図1, 5, 7A, B)

Dendrophilus (*Dendrophilus*) *xavieri* MARSEUL, 1873

図説 N: 68, f. 34-22. 図説 H: 224, f. 40-23; ÔHARA, 1994: 149 [再記載, ♂交尾器].

体長 2.78-3.30 ミリ, 幅 1.93-2.26 ミリ. 背面は一樣に点刻され, 鞘翅背条は明瞭, 個体により長さの変異がある (第1背条は通常ほぼ完全で時折先端1/3をかすれさせる; 第2, 5は通常基部2/3にあり, 第2はほぼ完全になることもある; 第4は基部1/2にある; 会合条は基部2/3にあり基部1/3はかすれる). マルマメエンマムシ属 (*Gnathoncus*)に 一見似るが亜科の区別点 (本種にのど板がある) を確認すれば同定を誤ることはない. 本種のハビタットは多様で, 豚糞, 鶏糞, 植物腐廃物, 死体, トリ・ネズミの巣などから採集される. 貯穀の中にも見つかかり, 貯穀害虫の幼虫を捕食すると考えられている. 分布: 北海道, 奥尻島, 本州, 四国, 九州, 台湾, 東シベリア, イギリス・北アメリカ (移入).

1-3-7-2. ツブエンマムシ族

Anapleini

Anapleus 1属からなり, OLEXA (1982)により創設された.

ツブエンマムシ属

Anapleus HORN, 1873

世界に13種, 新・旧北区, 東南アジア, 中米, 南米, アフリカに分布. 日本には4種が分布する. すべて体長2-3ミリで体全面が点刻で覆われているため, 種の特徴がとらまえにくい. 体長と点刻密度が重要な形質となるが変異も多く, きわめて同定の難しいグループである. 土壌中, 倒木上, ピットホールトラップで採集されている.

- 1(2) 尾節の中央は平圧される. オオツブエンマムシ
- 2(1) 尾節に平圧される部分はない.
- 3(4) 鞘翅の点刻は密で, 肩部では点刻間は点刻の直径の約1/3離れる. ツブエンマムシ
- 4(3) 鞘翅の点刻は疎で, 肩部での点刻間は直径の1, 2倍離れる.
- 5(6) 後胸腹板の点刻は一樣. ナラツブエンマムシ
- 6(5) 後胸腹板の点刻は粗いものと細かいものが混成している. オカヤマツブエンマムシ

ツブエンマムシ (図6左上)

Anapleus semen (LEWIS, 1884)

図説 H: 224, f. 40-20; ÔHARA, 1994: 153 [再記載, ♂交尾器].

体長 2.05-2.23 ミリ, 幅 1.46-1.85 ミリ. 4種のなかでは中型にあたる. 黒色で脛節と触角は赤褐色. 他の3種に比べ鞘翅表面の粗点刻は密で, 点刻直径の0.3-0.5倍でお互いに離れる (図6左上). 尾節の中央は平圧されず一樣な凸状. 後胸腹板中央は粗点刻を具え点刻は正中線付近で細くなる. 倒木上, ピットホールトラップによる採集で得られている. 分布: 北海道, 本州, 四国.

ナラツブエンマムシ (図6右上, 左下)

Anapleus nakanei M. ÔHARA, 1994

ÔHARA, 1994: 159 [原記載 (奈良, 本州)].

体長 1.89-2.07 ミリ, 幅 1.42-1.52 ミリで小型. 鞘翅の粗点刻は疎で点刻直径の約1.5倍離れる (図6右上). 後胸腹板中央は粗点刻を具え, 粗点刻間に細点刻をもたない (図6左下). 尾節の中央は平圧されず一樣な凸状. 種小名は中根猛彦博士に献名. 分布: 本州, 九州.

オカヤマツブエンマムシ (図6左中, 右下)

Anapleus nomurai M. ÔHARA, 1994

ÔHARA, 1994: 161 [原記載 (奈良, 本州)].

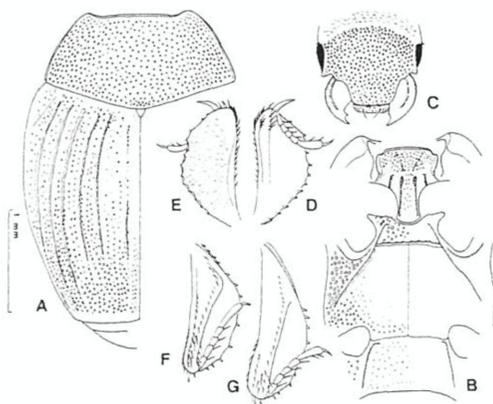


図5. オオマメエンマムシ. A: 前胸背と左鞘翅, B: 前胸, 中胸, 後胸腹板. C: 頭部. D: 前脛節, 背面. E: 同, 腹面. F: 中脛節, 背面. G: 後脛節, 背面 (ÔHARA, 1989より).

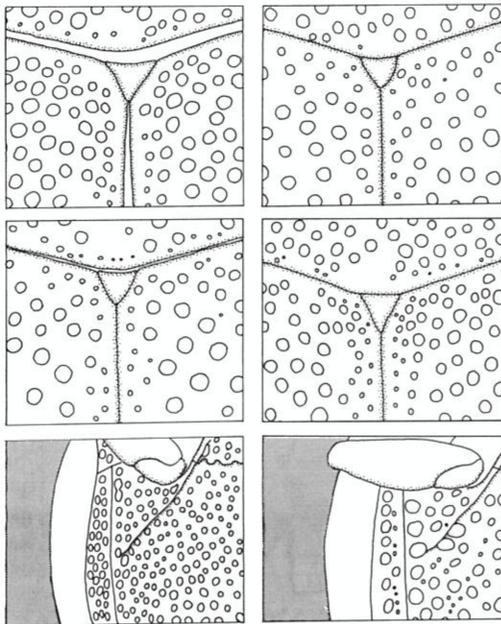


図6. 左上: ツブエンマムシ, 右上, 左下: ナラップエンマムシ, 左中, 右下: オカヤマツブエンマムシ, 右中: オオツブエンマムシ. 上, 中: 小盾板周辺の点刻. 下: 後胸腹板側部 (OHARA, 1994 の電顕写真をトレース).

体長 2.09–2.13 ミリ, 幅 1.44–1.56 ミリで小型。
A. nakanei にきわめてよく似る。2 種間に点刻の微妙な密度や大きさの差はあるが、識別点としての実用は難しい。唯一「後胸腹板中央の粗点刻間に細点刻をもつ (図6 右下)」違いが明瞭。尾節の中央は平圧されず一様な凸状。種小名は野村周平博士に献名。分布: 本州。

オオツブエンマムシ (図6 右中)

Anapleus hagai M. OHARA, 1994

OHARA, 1994: 162 [原記載 (中頓別, 北海道)].
 日本産では最も大型, 体長 2.45–2.84 ミリ, 幅 1.96–2.09 ミリ。黒色で脛節と触角は明るい茶色。鞘翅の粗大点刻は直径の約 1.5 倍離れる (図6 右中); 先端 1/5 は皺状になる。尾節の中央は平圧される。種小名は芳賀馨氏に献名。分布: 北海道, 本州。1-3-7-3. アカツブエンマムシ族

Bacaniini

本族は世界に 8 属約 100 種, 日本からは *Bacanius* 属 2 種の記録がある。日本の種は再検討がなされておらず, 多くの未記録・未記載の種が含まれる。従来同定は何種かが混同されている可能性があり, 分布も再検討が必要である。ここでの分布は図説 H (224 p.) による。樹皮下, 土壌中から採集される。多くの種が体長 1 ミリ内外。

アカツブエンマムシ

Bacanius (Mullerister) niponicus LEWIS, 1879

分布: 本州, 四国, 九州, 対馬, 琉球, 台湾。

コアカツブエンマムシ

Bacanius (Bacanius) mikado (LEWIS, 1892)

分布: 北海道, 本州, 四国, 九州, 対馬。

1-3-7-4. チビヒラタエンマムシ族

Paromalini

世界に 10 属約 500 種, 日本からは 6 属 14 種が知られる。*Eulomalus* 属に追加種が 1, 2 ある。クロチビエンマムシ以外の日本産の種は樹皮下, 朽木内に生息している。

属までの検索

- 1(2) 鞘翅には通常の背条がある。……………クロチビエンマムシ属
- 2(1) 鞘翅は明瞭な背条を欠き, 点刻を具えるのみ (まれに痕跡的な背条をもつ)。
- 3(4) 前尾節に横断する線をもつ。後胸腹板側線は後方までのびない。脛節は偏平に広がる。……………ハスジチビヒラタエンマムシ属
- 4(3) 前尾節に横断する線はない。後胸腹板側線は後方までのびる。前脛節のみ偏平に広がる。
- 5(6) 前胸腹板突起は縁取りされない (carinal stria を欠く)。……………ホソチビヒラタエンマムシ属
- 6(5) 前胸腹板突起は縁取りされる。
- 7(10) 前頭条は完全。
- 8(9) 前胸背の後縁に不規則な点刻列をもたない。体は偏平か筒状。……………チビヒラタエンマムシ属
- 9(8) 前胸背の後縁に粗い点刻からなる不規則な列をもつ。体は卵型で盛り上がり厚みがある。……………マルチビヒラタエンマムシ属
- 10(7) 前頭条は上唇の後ろで途切れる。……………

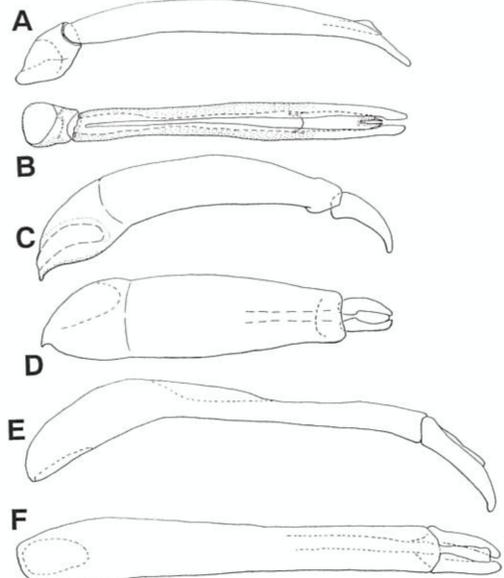


図7. A, B: オオマメエンマムシ. C, D: クロチビエンマムシ. E, F: マルチビヒラタエンマムシ. 雄交尾器, ペニス (Aedeagus). A, C, E: 側面, B, D, F: 背面 (OHARA, 1994 より).

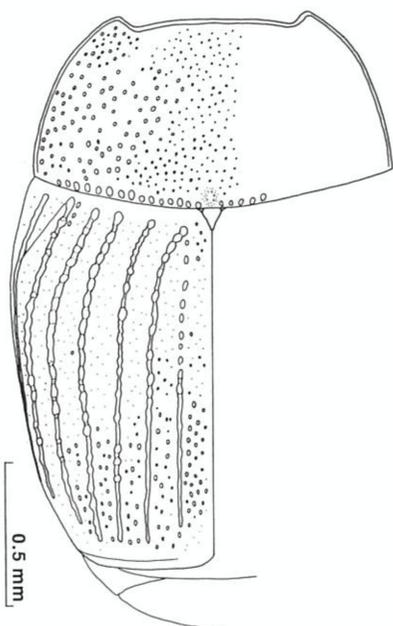


図8. クロチビエンマムシ (Auckland, New Zealand 産), 前胸背, 左鞘翅.

……………チャイロチビヒラタエンマムシ属
クロチビエンマムシ属

Carcinops MARSEUL, 1855

本属は KRYZHANOVSKIJ and REICHARDT (1976) ではオオマメエンマムシ族に含まれていた。MAZUR (1973) はチビヒラタエンマムシ族に含めると考え、私 (大原・今坂, 1988; ÔHARA, 1994) も同じ意見を示した。族の扱いはこれでよいと思うが、本属は他属 (*Platylomalus*, *Paromalus* など) とは「雄交尾器第8腹節の構造」「尾節に雌雄差をもたない」などの点で異なっており、亜族レベルの区別が必要かもしれない。

クロチビエンマムシ (図7C, D, 8)

Carcinops pumilio (ERICHSON, 1834)

Carcinops quatuordecimstriatus: 図説 N: 68, f. 34-23. ……*Carcinops pumilio*: 図説 H: 224, f. 40-24; ÔHARA, 1994: 167 [再記載].

体長 1.98-2.57 ミリ, 幅 1.30-1.74 ミリ。鶏糞, 豚糞, 植物腐廃物, 死体などから採集される。貯穀からも採集され屋内でも見られる。分布はコスモポリタンで, MAZUR (1987) は南米に起源があり, そこから全世界に分布を広げたものと考えている。日本では北海道, 本州, 四国, 九州, 伊豆諸島, 南西諸島, 小笠原諸島から記録がある。

マルチビヒラタエンマムシ属

Australomalus MAZUR, 1981

MAZUR (1981) が創設した新しい属。「体形が卵形で厚みのあること」「前胸背後縁に粗点刻列をもつこと」を他属との区別点にしているが, 雄交尾器や外部形態をみると *Platylomalus*, *Paromalus*, *Eulo-*

malus ときわめて近縁な属である。4種が知られ日本 (1種), ベトナム (1), フィジー (2) に分布する。マルチビヒラタエンマムシ (図7E, F, 9)

Australomalus montivagus (LEWIS, 1892)

Platylomalus montivagus: 図説 H: 224, f. 40-26. ……*Australomalus montivagus*: ÔHARA, 1994: 171 [再記載].

体長 2.24-2.32 ミリ, 幅 1.53-1.65 ミリ。雌は尾節に深い皺状彫刻をもつ (図9C)。体形から一見ツブエンマムシとハスジチビヒラタエンマムシに似るが, 検索表に示した形質で区別できる。朽木内, 樹皮下から採集される。分布: 北海道, 本州, 四国, 九州。

概説 V の訂正 (甲虫ニュース第118号)

p. 1, 図1, 「LEWIS」を「C. R. SAHLBERG」.

参考文献 (Iで挙げたものは*,

Vは**を付け略した)

HELAVA, J., H. F. HOWDEN, & A. J. RITCHIE (1985). A review of the new world genera of the myrmecophilous and termitophilous subfamily Hetaerinae (Coleoptera: Histeridae). *Sociobiology*, 10 (2): 127-386.

*久松定成 (HISAMATSU, S.) (1985). [図説 H].

HÖLDOBLER, B. & E. O. WILSON (1990). *The Ants*. Belknap Press of Harvard University Press, Cambridge, Mass. xii + 732 pp.

*KRYZHANOVSKIJ, O. L. & A. N. REICHARDT (1976).

黒沢良彦 (KUROSAWA, Y.) (1976). アカアリツカエンマムシの採集記録. 甲虫ニュース, (33): 11.

**MAZUR, S. (1973).

MAZUR, S. (1981). Two new histerid beetles from Fiji (Coleoptera, Histeridae). *N. Z. J. Zool.*, 8: 379-381.

*MAZUR, S. (1984).

MAZUR, S. (1987). Zmiany wśród gniliakowatych (Coleoptera, Histeridae) fauny Polski w ciągu ostatnich dwustu lat. *Wiad. Entomol.*, 7(3-4): 141-147.

*中根猛彦 (NAKANE, T.) (1963). [図説 N]

*ÔHARA, M. (大原昌宏) (1994).

大原昌宏・今坂正一 (ÔHARA, M. & S. IMASAKA) (1994). 島原半島の甲虫相 V. エンマムシ科. 北九州の昆蟲, 41 (1): 1-16 + 1 pl.

OLEXA, A. (1982). Revision der paläarktischen Arten der

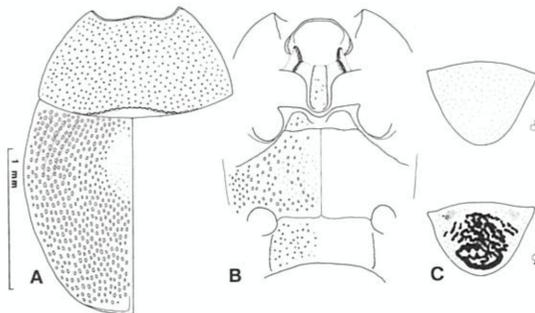


図9. マルチビヒラタエンマムシ. A: 前胸背と左鞘翅. B: 前胸, 中胸, 後胸腹板. C: 尾節 (ÔHARA, 1994より).

Gattung *Anapleus* (Coleoptera, Histeridae). *Acta Ent. Bohemoslov.*, 79: 37-45.

*WENZEL, R. L. (1944).

付記. 6月14日, サンクト・ペテルブルグの Zoological Institute でゴミムシとエンマムシの研究をされていた O. L. KRZYZHANOVSKIY 博士が 80 才で亡くなられた。ロシアでは 1930, 40 年代に A. N. REICHARDT 博士がエンマムシを研究していたが, 第二次世界大戦中 (1942年2月) にドイツ軍のレンングラード包囲により死亡され, 残された未完の原稿

とその後の研究を KRZYZHANOVSKIY 博士が引き継がれた。1976年, REICHARDT 博士の没後 34 年を経て二人の共著として “Fauna USSR: エンマムシ上科” が集大成されている。これはエンマムシ研究においてもっとも優れた論文であり, 私にとっても何よりの参考書であった。存命のうちに多くのことを習いたかったが, かなわぬこととなってしまった。ご冥福をお祈りする。

(北海道大学昆虫体系学講座)

○愛知県で採集されたダルマガムシ 2 種

MATSUI (1986) の中で 2 種のダルマガムシが記載されたが, 愛知県で採集されたそれら 2 種の標本を調査することができたので報告する。なお愛知県からはすでにダルマガムシ科はセスジダルマガムシ *Octhebius inermis* SHARP の 1 種の記録がある (佐藤, 1990)。

1. *Octhebius hasegawai* NAKANE et MATSUI ハセガワダルマガムシ

1 頭, 愛知県足助町東大見 (巴川), 12. IX. 1994, 吉富博之採集。

東京都小仏峠産の 1 頭の正基準標本のみに基づいて記載された種だが, それ以降の正式な記録はなかったと思われる。この個体はヒメドロムシを採集している際に得られたもので, 同時にヒメドロムシ科 7 種 (アカモンミゾ, ツヤヒメ, ツヤナガアシ, ホソヒメツヤ, マルヒメツヤ, ヒメツヤ, ツヤ) が採集された。

2. *Octhebius nakanei* MATSUI ナカネダルマガムシ

1 頭, 愛知県足助町一ヶ瀬 (足助川), 11. IX. 1996, 白金晶子採集。

本種は熊本県菊池渓谷産の 1 頭の正基準標本に基づいて記載されたが, その後, 栃木県で 2 頭追加記録がある (佐藤・大桃, 1995)。この個体はカゲロウ類の幼虫の調査中に採集されたもので, 同時にヒメドロムシ科 4 種 (ツヤヒメ, ツヤナガアシ, ホソヒメツヤ, ツヤ) が採集されている。

これら 2 種のダルマガムシの採集地はいずれも矢作川の支流に当たり, 直線距離は 5 km ほどしか離れていない。しかしハセガワダルマガムシが水深がたいへん浅く川底が砂地でこぶし大の石が多い場所で採集されたのに対し, ナカネダルマガムシは水深が比較的深く頭大の石が多い場所で採集されたそうなので, 若干の生息環境の相違が考えられる。

末筆ながら, 貴重な標本を提供して下さった名城大学農学部動物学研究室の白金晶子氏と, 日頃より数々の御教示をいただいている名古屋女子大学の佐藤正孝教授と宇都宮市の佐藤光一氏にお礼申し上げます。

引用文献

MATSUI, E., 1986. Notes on some new Hydrophiloidea

from Japan. *Pap. Ent. pres. Nakane, Tokyo*: 81-90.
佐藤光一・大桃定洋, 1995. 栃木県産甲虫類分布資料 (4).
昆虫, (46): 14-23.

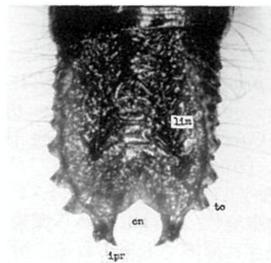
佐藤正孝, 1990. 愛知県の甲虫 (I). 愛知県の昆虫 (上):
204-231. 愛知県.

((株)環境指標生物, 吉富博之)

○サキシマシロモンサビキコリの幼虫

サキシマシロモンサビキコリ *Agrypnus scutellaris hamai* は, トカラ列島から沖縄諸島にかけて分布するシロモンサビキコリ *A. scutellaris scutellaris* の亜種として石垣島, 西表島, 黒島などから知られている普通種である。

1995年1月に石垣市の深石隆司氏が, 自宅の庭の土中から幼虫を見出した。体長は 22 mm 内外でやや扁平状, 体は膜状部を除いて暗褐色で, 頭部や前胸背板は黒褐色。第 9 腹節は暗褐色, 背板は扁平で, 荒い横しわ状である (図)。周辺部には各 5 個内外の歯状突起 (to) を有し, 後方のはより顕著である。側溝 (lim) は明瞭で, これに挟まれた板上の前部には 4 個内外の半球状の小隆起物と後方に 2 本の剛毛を生ずる。Urogomphus の外分枝の末端部は上反して尖り, 内分枝 (ipr) よりやや強大である。尾節凹陷 (cn) は V 字状で, 幅と長さはほぼ等しい。



本幼虫の一般外形は, サビキコリにきわめてよく似ているが, 体色や第 9 腹節の尾節凹陷の形などによって識別できる。充分老熟した幼虫は体長 27 mm 程度になるものと思われる。また, 本個体は成虫まで飼育による確認はしていないが, この地域に分布するものでサビキコリに類似した種は本種のみであるので, 同定は間違いないものと思われる。

末尾に, 幼虫の採集に支援を頂いた石垣市川平の深石隆司氏に心から御礼を申し上げます。

(愛知県岡崎市, 大平仁夫)

ベトナム北部での *Pidonia* 調査

窪木幹夫

ベトナム最高峰のファン・シ・パン山(3,143 m)の北側の Deo Tram Ton 峠付近で *Pidonia* の生息調査を行った。中国国境のラオカイ(標高 80 m)からサバを経由して峠(2,020 m)に至る道路沿いは焼畑が行われ、原生林はほとんどない。調査地は峠の南側に位置し、牛の放牧のために一部伐採された二次林で、南側と西側は原生林に接している(図1)。植生は落葉樹が混じる常緑潤葉樹林で、台湾の同標高に分布する紅松や扁柏のような針葉樹は見られなかった。調査の結果、2種の *Pidonia* がシイ類とクマヤナギ属の *Berchemia floribunda* の花から採集された。

調査地: ファン・シ・パン山北部(標高 2,050 m)、ホワンリエンソン山脈、ライチャウ省。

調査年月日: 1997年4月30日-5月1日。

本文に入るに先立ち、調査に協力して下さった北村民弥、筒井謙、森川清志の各氏にお礼申し上げる。

1. *Pidonia (Pidonia) insperata* A. SAITO

検視個体: 3♂♂ 4♀♀, 窪木採集; 4♂♂ 4♀♀, 森川採集; 2♂♂, 筒井採集; 2♂♂, 北村採集。

本種は *Cryptopidonia* 亜属として記載されたが、下記の理由で、これを *Pidonia* 亜属に所属させた。

♂の内陰茎の盲管は、*Cryptopidonia* 亜属では長い。*Pidonia* 亜属では短い。が、*P. maculithorax* のように比較的長い種もある。*P. insperata* の盲管は短かった。

上翅端は *Cryptopidonia* 亜属では丸型、*Pidonia* 亜属では切型である。*P. insperata* の上翅端は切型で、側縁角は丸みを帯びていた。

上翅の黒紋は、*Cryptopidonia* 亜属では Lm 紋が大きく、丸形から長楕円形である。*Pidonia* 亜属では二つのタイプがあり、一つは *P. signifera* のように線形で Lb 紋や La 紋と接続して細長い側縁紋と

なる。他は *P. semiobscura* のように3個の側縁が会合線に向かって発達し、Lm 紋が三角形になる。上翅斑紋の発達した *P. insperata* の Lm 紋は三角形であった。

アジア大陸と台湾に分布する *Cryptopidonia* 亜属は、全種が上翅に青色の金属光沢を持つ。*Pidonia* 亜属では緑色の金属光沢を持つ *P. submetallica* 群を除くすべての種が黒(赤)-黄に変化をする。*P. insperata* の上翅に金属光沢はなかった。

♂の小脛鬚は、*Cryptopidonia* 亜属では、小さい。*Pidonia* 亜属では、大きく、三角形、時に四角形。*P. insperata* では、大きく、三角形であった。

前胸の側部は、*Cryptopidonia* 亜属でややふくらむ種から丸型である。*Pidonia* 亜属では側部は三角形に突き出し、側頂は尖る。*P. matsushitai* のように丸みの強い種でも側頂は鈍く尖る。*P. insperata* は三角形で、側頂は弱く尖っていた。

♀の受精囊の基部は *Cryptopidonia* 亜属ではロート型、*Pidonia* 亜属では切型で、時に蛇腹構造を持つ。*P. insperata* は切型で、蛇腹構造はなかった。

SAITO (1989) は日本産ハナカミキリ亜科の♀交尾器を調べ、*Pidonia* 属では産卵管の形態が亜属の標徴として重要であると指摘した。これによると、*Cryptopidonia* 亜属では肛側板が非常に短く、陰基節葉状部が太く、先端が丸い。尾状体は大きく、葉状部の前方に接続する。*P. insperata* はこれらの特徴を備えている(SAITO, 1995)。そこで、肛側板の長さを産卵管(肛側板の腹面棒状片の基部から陰基節の先端まで)に占める肛側板の腹面棒状片の割合で測定した。日本の *P. (P.) obscurior* で 52%、*P. (P.) himehana* で 53%、*P. (C.) insuturata* で 44%、*P. (C.) oyamae* で 43% と両亜属に明瞭な差が認められた。しかし、台湾の *P. (P.) gloriosa* で 51%、*P. (P.)*



図1. ファン・シ・パン山北部の調査地(標高 2,050 m)。

図2. 2種の *Pidonia* が採集されたシイ類の花。

paradiasiacola で49%, *P. (P.) submetallica* で46%, *P. (C.) fushani* で49%, *P. (C.) anmashana* で47%と両亜属に差はなかった。ベトナムの *P. insperata* では48%であった。肛側板の長さは *Cryptopidonia* 亜属の特徴として使えなくなってしまう。

SAITO (1995) は、*P. insperata* が産卵管では *Cryptopidonia* 亜属の特徴を持つのに、上翅の色彩や受精囊の形態では *Pidonia* 亜属の特徴を持つので、これを *Pidonia* 属の中で系統的に孤立した種と指摘した。*Pidonia* 属の各形質の中で、♂の盲管や♀の産卵管には *Pidonia* 亜属なのに *Cryptopidonia* 亜属と共通する形態を持つ種が見つかる。このことは *Cryptopidonia* 亜属の方が古い形質を持ち、*Pidonia* 亜属が新形質を獲得する中で、一部の *Pidonia* 亜属の種や種群が古い形質を持ち続けていると考えられる。属としての歴史の古い *Pidonia* 属では、全種が共通した方向に変化を示す形態もあれば、特定地域で著しい分化を示す形態もある。また、古い時代に分化した形態もあれば、比較的新しい時代に分化した形態もある。これらの見極めが不十分であったり、検視材料の地域的偏りがあると正しい系統の推定は困難になってしまう。一見して、*P. insperata* の上翅斑紋や体の色彩が *P. (C.) masakii* や *P. (C.) oyamae* に似ていたことも、本種を *Cryptopidonia* 亜属に所属させてしまった原因の一つであろう。

2. *Pidonia* (*Mumon*) sp.

検視個体: 2♂♂, 筒井採集; 2♀♀, 森川採集。

頭、前胸部はやや赤味を帯びた黄褐色。メラニン顆粒の減少が顕著である。上翅も黄褐色で、黒紋を欠く。小臍鬚、触角、肢は黒褐色。台湾に分布する *P. formosana* に似ている。

観察と考察

地域個体群を構成するいくつかの種の体色、上翅斑紋、体型などが似ることが知られている。たとえば、日本海地域の *Pidonia* には、体型の寸詰まりと肢と触角の短化や触角、上翅、肢を含む体全体の黒色部の縮小が起きている(窪木, 1993)。この変化は近縁種間だけでなく、異なる系統間でもおきているので、環境要因が強く影響していると考えられる。ベトナムの2種の *Pidonia* に共通する特徴を見いだせないだろうか。

4月30日、観察時刻: 午前11時-午後3時。

曇り、時々晴れ。林縁に咲く2本のシイ類の花に、*Pidonia* やカミキリ亜科、大形のハナカミキリ類が断続的に訪花した(図2)。

5月1日、観察時刻: 午前10時-午後3時。

快晴。昨日10頭を超える *Pidonia* が採集された

○奄美大島でのケブカコフキコガネの採集例

筆者は今年(1997)3月5日、奄美大島南部の瀬戸内町蘇刈で街灯に飛来したケブカコフキコガネ2♂♂を採集した。本島からの記録は無いと思われたので友人の紹介で三宅義一氏に記録の有無を確認していただいたところ、未記録とのご教示があったの

2本のシイ類の花から、1頭も採集できなかった。強い陽射しが *Pidonia* の訪花を阻んだと考えられる。森川氏は林内でシイ類の花を見つけ、10m近い竿を使い、大きな成果をあげた。私は林内や林外に咲く、高さ2~4m、小さな花をつける *B. floribunda* の花を調べて回った。しかし、1頭の *P. insperata* を採集したにすぎなかった。この花はまだつぼみの株もあり、花期は長い、原生林を構成するシイ類の方が *Pidonia* の主要な訪花植物と考えられる。

ベトナムの *Pidonia* は頭、胸部背面、上翅の黒色部の退色が著しい。高照度下で体を黄褐色に変え、熱吸収を小さくし、体温上昇を防いでいると考えられる。おもしろいことに、系統の異なる2種の色彩が似ている。触角は黒褐色、腿節は黄褐色で背面が細く黒色、脛節と跗節は黒褐色で後肢が最も黒ずむ。

網の中で活発に歩き回る *Pidonia* の長い触角と肢が印象に残った。これも活動性と関係があるかもしれない。肢の長さを上翅端への腿節先端の到達程度で比較すると、*P. insperata* では、♂♀とも後腿節の末端が上翅端を大きく越えた。*Pidonia* 亜属の特徴を示している。*Mumon* 亜属は普通後腿節の末端が上翅端に達しないのに、*P. (M.)* sp. は♂♀とも翅端に達していた。触角も *P. insperata* の♂で3節、♀で2節、*P. (M.)* sp. の♂で2節、♀で1節を残し翅端に達していた。

ファン・シ・パン山は台湾の北大武山より南に位置し、*Pidonia* 属の分布の南限になる。今回の調査はホン川とその支流のダー川に挟まれたホワンリエンソン山脈の一点にすぎない。この山脈は中国雲南省の大理の西方に連なっている。今後、季節や標高を変えて調査すると新たな *Pidonia* の発見の可能性もある。

引用文献

- 窪木幹夫, 1993. 本州日本海地域のヒメハナカミキリ。甲虫ニュース, (104): 1-4.
SAITO, A., 1989. Female reproductive organs of lepturine cerambycid beetles from Japan, with reference to their taxonomic significance. *Elytra*, Tokyo, 17: 65-86, 201-233.
———1995. Cerambycid beetles (Coleoptera, Cerambycidae) from northern Vietnam, I. A new species of the genus *Pidonia* (Lepturinae). *Elytra*, Tokyo, 23: 159-165.

(東京都世田谷区)

で、ここに報告する次第である。

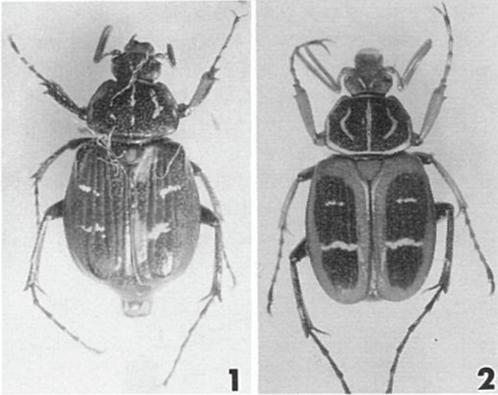
この標本をお送りして精査して頂いたところ、ケブカコフキコガネ *Tricholontha papagena* NOMURA とは若干の差異が認められる、とのことであった。

末筆ながら、種々ご教示頂いた三宅義一氏に厚くお礼申し上げます。(鹿児島県大島郡、前田芳之)

○オオトラフコガネの雌雄モザイク個体

筆者は新潟県湯沢町でオオトラフコガネ *Paratrichius doenitzi* (HAROLD) の雌雄モザイクと思われる個体を採集したので報告する。

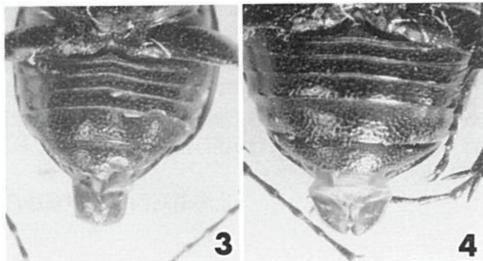
1頭, 新潟県湯沢町松手山 (1,411 m), 13. VIII. 1995, 芳賀 馨採集, 標本保管 (写真 1)。



採集地点はミズナラ等の二次林 (下方) と雪崩ヤブ (上方) にはさまれて局所的に残されたブナ原生林で, 送電鉄塔敷として伐開された部分に生えたノリウツギの花上から, 多数の本種の正常個体に混じって上記個体を採集した。花上から採集されたので飛行能力はあったものと思われるが, 動作は正常個体に比べて緩慢だった。

上記個体は上唇から尾節板までの体長が約 14 mm で, 正常の♀個体より小さい。触角は右側が正常の♀と同様の形状をなし, 左側は片状部が右側の約 2 倍の長さであるが, 正常の♂の触角片状部 (写真 2, 同時に採集された個体) に比べれば約 2/3 倍の長さである。体色は背面, 腹面とも黒色で正常の♀に近いが, 小盾板中央, 右前脛節, 右中脛節, 右後腿節, 右上翅第 1, 2 間室が部分的に♂と同じ赤褐色になる。また, 中胸腹板, 右中胸後側板, 右中脚基節, 右後脚基節, 腹部第 III, IV, V, VI, VII 腹板の各一部分に, ♀と同じ黄白色の微毛を装う。

生殖器は解剖していないが, 第 VII 腹板と尾節板の間には一対の半腹板 (写真 3) が収納されており, 正常の♀のそれ (写真 4, 同時に採集された個体) と同じ構造になっている。従って内部生殖器は♀のものとなっている可能性が高い。



以上の観察から, 上記の個体は♀個体の一部分に♂の形質が混じって現れた雌雄モザイクであると考えられる。

末筆ながら, 採集地点の甲虫相に関する文献を恵与され, 同地を訪れる動機を作って下さった山屋茂人氏 (長岡市立自然科学博物館) に心からお礼申し上げる。 (埼玉県浦和市, 芳賀 馨)

○福岡県能古島で採集された甲虫 2 種

筆者は 1993 年より福岡県福岡市西区能古島 (このしま) においてオサムシ科を中心に甲虫類の調査を行っているが, 一昨年, 興味深い 2 種を採集しているので報告する。

1. キバネキバナガミズギワゴミムシ (写真)

Armatocillenus aestuarii S. UENO et HABU

渡船場の灯火に飛来した個体を採集した。本種は後肢転節が背面に達するほど長く先端が尖るため, 他種との識別は容易である。森田誠司氏のご教示によれば, 本州の既知産地では多産するが, 現在までの九州における記録は原記載 (1955, p 347) による Fukuoka の 1 ♀ のみとのことである。

1頭, 8. VII. 1995. 筆者採集。



2. コガタノゲンゴロウ

Cybister tripunctatus orientalis GSCHWENDTNER

本種は戦前には福岡市周辺をはじめ県内各地に多産したが, 近年は全く採集されていないようである (野村, 1993, 1995)。本個体は海岸近くの灯火で得られた。

1♂, 8. VII. 1995. 筆者採集。

末筆ながら, キバネキバナガミズギワゴミムシについてご教示を頂き, 原稿を見て下さった森田誠司氏にお礼申し上げます。

参考文献

- 野村周平, 1993. 福岡県の水生甲虫に関する資料. 新築紫の昆虫, (2): 5-20.
 ———— 1995. 福岡県の水生甲虫に関する追記. 新築紫の昆虫, (4): 39-44.
 UENO, S.-I., 1955. Studies on the Japanese Trechinae (III) (Coleoptera, Harpalidae). *Publ. Seto mar. biol. Lab.*, 4: 337-351.

(九州大学, 藤本博文)

○関東におけるヒラタマルゴミムシの追加記録

ヒラタマルゴミムシ *Cosmodiscus platynotus* (BATES) は原色日本甲虫図鑑を見る限りでは稀種として知られ、BATES (1873) の原記載が指摘しているように、大きさと形態共に一見トックリゴミムシを幅広くしたような印象を受ける歩行虫である。筆者は最近、東京都世田谷区で採集された歩行虫類を検査する機会を得たが、その際、思いもよらず本種が確認されたのでデータを報告しておく。また、最近本種は近隣県でも少なからず採集されているのでこの機会にこれらの採集データも併せて記した。

1♂, 東京都世田谷区砧公園, 13. IX. 1996. 松本陽介採集, 筆者保管。

4♂♂, 東京都世田谷区馬事公苑, 2. VI. 1997. 島田孝採集, 筆者保管。

1♀, 神奈川県川崎市多摩区生田緑地, 岸本敏郎採集, 筆者保管。

2♂♂, 埼玉県嵐山町菅谷, 26. IX. 1994. 豊田浩二採集・保管。(以下同氏採集・保管。)

1♂, 埼玉県嵐山町菅谷, 17. VI. 1995.

1♀, 埼玉県嵐山町菅谷, 23. VII. 1995.

1♂, 埼玉県嵐山町菅谷, 10. VII. 1996.

砧公園での採集者の話によると、本種は公園内のアズマネザサが目立つ雑木林の林床に仕掛けたベイトトラップ(餌は糖蜜)で採集されている。砧公園と程遠からぬ馬事公苑では、やはり同様の環境に隣接する側溝にて採集されている。

生息環境はさだかでないが、埼玉県下では雑木林でのベイトトラップ(カルピスとすしのこの混合液)及び夜間の見つけ採り、側溝掘り等で採集されている他、川崎市の生田緑地では落ち葉中から採集されている。以上の事から考えても、本種は稀種とはいえないもの、人里近くに見受けられるごく普通の景観の片隅でただ単に見見過がされているのではないかという可能性も否定できない。

末筆ではあるが、本種採集時の情報をお寄せいただいた埼玉県嵐山町の豊田浩二氏並びに東京農大一高の松本陽介氏にお礼申し上げるとともに、文献の入手でお手数をお掛けした芳賀馨氏にお礼申し上げます。

参考文献

- BATES, H. W., 1873. On the geadephagous Coleoptera of Japan. *Trans. ent. Soc. London*, 1873: 219-322.
- HABU, A., 1981. Female Genitalia of Pterostichini species mainly from Japan (II). *Ent. Rev. Japan*, 36: 33-53.
- 笠原須磨生, 1986. 歩行虫類. 板橋区昆虫類等実態調査: 53-55.
- 黒佐和義, 1981. 自然教育園で得られた土壌昆虫について (II). 自然教育園報告, (12): 77-87.
- 坂本繁夫・土屋裕志, 1983. 三浦半島の歩行虫(予報). 神奈川県自然史資料, (4): 7-17.
- 須田亨, 1980. 伊勢崎市とその周辺に産する歩行虫類. *インセクト*, 31(2): 53-65.

田中和夫, 1962. 蛍光燈に飛来した歩行虫類. 自然科学と博物館, (29): 109-131.

田尾美野留, 1984. 横浜市北部の歩行虫目録(I). 神奈川虫報, (73): 1-9.

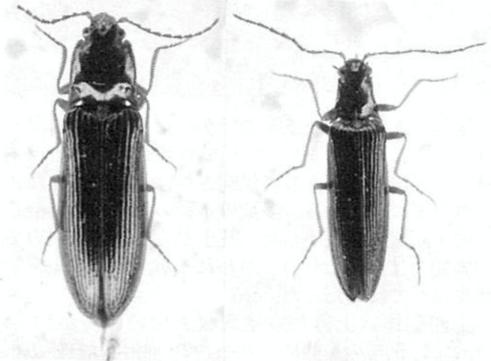
芳賀馨, 1992. ヒラタマルゴミムシを調布市で採集. 甲虫ニュース, (100): 38.

(東京都世田谷区, 佐藤陽路樹)

○アオツヤハダコメツキ雌の採集例

アオツヤハダコメツキ *Mucromorphus miwai yushiroi* W. SUZUKI は北海道の山地に比較的普通に見られ、雄は多いが雌はなかなか得られない。筆者は草本植物の茎と葉の間に静止している本種雌を採集しているので報告したい。

コメツキムシについては雄と雌で体型が著しく異なる例は他にもあるが、本種は特に際だっており、採集した時は別種のように思われた(写真左, 右は♂)。



本種について種々御指導をいただき、発表を勧められた大平仁夫博士(岡崎市)に深謝する。

1頭, 北海道士幌町十勝三股シンノスケ3の沢, 20. VII. 1991, 伊藤勝彦採集。

参考文献

- 黒澤良彦ほか, 1985. 原色日本甲虫図鑑(III). 保育社。
- 平嶋義宏監修, 1989. 日本産昆虫総目録. 九州大学農学部昆虫学教室・日本野生生物研究センター。
- (北海道河西郡, 伊藤勝彦)

○訂正とお詫び

本誌第114号(1996)の8頁で筆者は北海道の記録としてセメノフツツハムシ *Cryptocephalus semenovi* WEISE の採集例を報告したが、実は筆者の同定違いでフタスジツツハムシ *Cryptocephalus bilineatus* (LINNÉ) であったことが判明した。同発表を訂正し、誤同定をした筆者の軽率さをお詫び申し上げますと共に本種について御指摘いただき、再同定いただいた多比良嘉晃氏(静岡市)の御厚情に深くお礼申し上げます。

(北海道河西郡, 伊藤勝彦)

○三重大学平倉演習林の未記録の甲虫類

1997年の日本鞘翅学会の採集会は三重大学平倉演習林で行われ、筆者も参加した。ここは昔から好採集地として知られ、タイプロカリティとなっているものも数多くある。現在までに98科1,439種の報告があり、一応まとまってはいるが、アリヅカムシ、コケムシなどの微少甲虫の記録は少ない。そのなかで調査精度の高いものはカミキリムシ科で160種記録されている。これから甲虫総数を推定してみると、 $160 \div 7.3$ (神奈川県のカミキリムシ科構成率) $\times 100 = 2,192$ 種となり、2,200種ほどの種が生息していると思われる。また、調査精度を計算してみると、 $1,439 \div 2,192 \times 100 = 65.6\%$ で、決して良いとは云えない。調査に偏りが見られるからである。

今回の採集会には露木繁雄氏をはじめとしていわゆるカミキリムシ屋が多かったが、笠原須磨生氏(オサムシ科)、岸本年郎氏(ハネカクシ科)、野村周平氏(アリヅカムシ科)、吉富博之氏(マルハナノミ科)、桐山 功氏(軟鞘類)らと地元のベテランが参加したので、かなりの新知見があったものと思われる。

地域の調査採集は別として、通常の採集は自分が採ったことのないものを狙うのが普通で、筆者も主に朽木性の甲虫を目標とした。したがって採集品に偏りが見られるが、未記録と思われる甲虫類をいくつか採集できたので、ここに報告しておく。データは三重県美杉村平倉演習林、7~8. VI. 1997. である。頭数は割愛させていただく。

Dyschirius yanoi KULT チャマルチビヒョウタンゴミムシ

Laccobius oscillans SHARP コモンシジミガムシ

Bacanius mikado (LEWIS) コアカツブエンマムシ

Platylomalus fujisanus (LEWIS) フジチビヒラタエンマムシ

Anisotoma curta (PORTEVIN) ハバビロタマキノコムシ

Agathidium subcostatum PORTEVIN オオマルタマキノコムシ

Scaphisoma rubrum REITTER アカミケシデオキノコムシ

Lispinus aper SHARP コチビホソハネカクシ

Batrisceniola dissimilis (SHARP) アナズアリヅカムシ

Raphitreus speratus (SHARP) ヒゲブトエクボアリヅカムシ

Aphodius yamato NAKANE クロツブマグソコガネ

Flavohelodes nakanei (KLAUSNITZER) コキムネマルハナノミ

Isorhipis foveata HISAMATSU ホソナガコメツキダマシ

Malthinus japonicus OHBAYASHI クロツマキジョウカイ

Telsimia nigra (WEISE) クロテントウ

Odontocis denticollis NAKANE et NOBUCHI ミツノツツキノコムシ

Hira humerosignata HAYASHI カタアカナガクチキ

Gallerucida lewisi (JACOBY) ムツキボシハムシ

Ogloblinia berberii (OHNO) ルリチビカミナリハムシ

Choragus cryptocephalus SHARP ズカクシノミヒゲナガゾウムシ

Ocyromera binotata KOJIMA et MORIMOTO

Ocyromera suturalis KOJIMA et MORIMOTO

Mecysmoderes fulvus ROELOFS ツツジトゲムネサルゾウムシ

Mechistocerus parviculatus MORIMOTO et MIYAKAWA コホシメカクシゾウムシ

以上のほかにも種名が決定出来なかったものもいくつかあった。採集会でいただいた文献資料をもとに未記録としたため、すでに記録されているものもあるかもしれないが、お許し願いたい。

末筆ではあるが、種々お世話になった秋田勝己氏はじめ地元の方々に厚く御礼申し上げる。

参考文献

大町文衛・山下善平・市橋 甫・成瀬善一郎, 1960. 平倉演習林の昆虫相, 第1報鞘翅目. 三重大学農学部演習林報告, (4): 1-58.

生川展行・秋田勝己・市橋 甫・今村隆一・久保田耕平・島地岩根, 1989. 平倉演習林の甲虫. ひらくら, 33(6): 88-141.

(神奈川県小田原市, 平野幸彦)

○ホソクロナガタマムシを埼玉県で採集

ホソクロナガタマムシ *Agrilus kawarai* Y. KUROSAWA は、これまで埼玉県では採集の報告がないようである(藤多, 1995)。

筆者は、埼玉県秩父郡大滝村で本種を採集したので報告する。



1頭, 埼玉県秩父郡大滝村中津川, 16. VII. 1996, 石蔵 拓採集。

末筆ながらホソクロナガタマムシの同定の労をとられた遠山雅夫氏ならびに標本撮影の労をとられた矢野高広氏に深謝する。

参考文献

藤多文雄, 1995. 埼玉県産タマムシ科既知種目録. 寄せ蛾記, (75): 1850-1852.

黒澤良彦ほか, 1985. 原色日本甲虫図鑑 (III), 保育社.

(東京都北区, 石蔵 拓)

○オキナワゴマフカミキリの針葉樹からの羽化脱出記録

オキナワゴマフカミキリ *Mesosa (Perimesosa) pictipes* GRESSITT はトカラ列島～沖縄本島にかけて分布し、2亜種に分けられ、宿主樹種としてはイスノキ・クロヨナ・ミカンの1種等の広葉樹のみが知られている(草間・高桑, 1984)。

前回クロオビトゲムネカミキリの針葉樹からの羽化脱出記録を報告した(岩田, 1996)が、これに引続き今回、このオキナワゴマフカミキリ沖縄本島産基亜種 *pictipes* に関する同様の記録を報告する。

1♂, 沖縄本島名護市, II～III. 1997 (リュウキュウマツ丸太), 16. V. 1997 同市にて羽化脱出, 沖縄県林業試験場採集。

この丸太はマツノマダラカミキリ *Monochamus alternatus* (Hope) の発生予察を目的として採集されたマツノマダラカミキリ食害材であった。

本種と同属の日本産の種は、各種広葉樹の他、針葉樹のマツ属を宿主とする場合がかなり見られ(草間・高桑, 1984)、本記録はこういった傾向を迫認するものである。

末筆ながら、標本、そのデータ、並びにその発表の御許可を賜った、沖縄県林業試験場の仲栄真盛長氏に厚く御礼申し上げる。

引用文献

- 岩田隆太郎, 1996. 甲虫ニュース, (115): 12.
草間慶一・高桑正敏, 1984. (日本鞘翅目学会編) 日本産カミキリ大図鑑. 講談社, 東京: 352-367.
(日本大学生物資源科学部, 岩田隆太郎)

◇採集会報告◇

1997年度の採集会は三重県美杉村三重大学平倉演習林で、6月7～8日実施した。前日の雨は嘘のように晴れ渡り、両日とも好天に恵まれ、各人、かなりの成果を得たようであった。7日、平倉演習林開門の8時半には、すでに数台の車が列をなしていた。午後から参加したグループもあった。三重大学の宿舎前に車を置き、それぞれ採集にかけた。夜は宿泊地の桜花学園林間学舎の校庭で、手巻き寿司と豪華なマグロの兜焼きとタラバガニの直火焼きを味わった。20時半から集会所で、平倉演習林採集案



内が目録資料と共に配られ、秋田勝己氏から説明があり、続いて参加者35名の自己紹介をし、22時に散会した。老人組は早々と引き上げたが、髭をはやした人と若い人達は酒を酌み交わしながら、朝の3時頃まで、虫談に夢中になったそうである。翌8日は、朝食後、写真撮影、8時半にはそれぞれ採集地に向かった。私はセダカテントウダマシをはじめ採集して感激したし、ナガクチキ、ゾウムシほか平倉未記録の甲虫がいくつか採れ、楽しい採集会であった。今回の採集会には地元の秋田勝己、石田勝義、今村隆一、成田茂男、福住和也、山本雅人の各氏及び名古屋女子大生の人達に大変お世話になった。なかでも食事の用意をいただいた方々には、特に感謝の意を表したい。

(企画担当, 平野幸彦)

◇日本鞘翅学会第10回記念大会迫る◇

恒例の秋の大会が今年で10回を数え、それを記念して来る11月15日(土)・16日(日)の2日間にわたり盛り沢山の企画が用意されていることは本誌前号別紙でご案内致しました。開催場所は“神奈川県立生命の星・地球博物館”(小田原市)で、宿泊のご案内も別紙を参照して下さい。担当幹事一同頑張っていますので是非ご来場ください。

◇『甲虫ニュース』原稿募集◇

皆様から原稿を広く募集致しております。内容は新しい分布記録だけでなく、生態・行動・形態・生理など甲虫に関するものであれば何でも結構です。今年もたくさん興味あるデータを得られたことと思います。それらを1行23字にそろえて下記宛ご寄稿ください。

〒196 東京都昭島市つつじが丘2-6-22-806

妹尾俊男宛 附図が無い場合はE-mailでも可。

senoh@ra2.so-net.or.jp

原稿をお待ち致しております。

日本鞘翅学会

会費(一カ年)6,000円、次号は1997年12月下旬

発行予定

発行人 佐藤正孝

発行所 日本鞘翅学会 東京都新宿区百人町3-23-1

国立科学博物館昆虫第1研究室

電話(3364)2311, 振替 00180-3-401793

印刷所 (株)国際文献印刷社

昆虫学研究器具は「志賀昆虫」へ

日本ではじめて出来たステンレス製有頭昆虫針00, 0, 1, 2, 3, 4, 5, 6号, 有頭ダブル針も出来ました。その他、採集、製作器具一切豊富に取り揃えております。

〒150 東京都渋谷区渋谷1丁目7-6

振替 00130-4-21129

電話 (03) 3409-6401 (ムシは一番)

F A X (03) 3409-6160

(カタログ贈呈) (株)志賀昆虫普及社